

読んだその日から実践してほしい

実践編 災害から「命を守る」備え

いつもの備え + 新型コロナ対策
1. 非常用持ち出しリスト

災害に備えて普段から持ち出せるように準備しておきましょう。非常食はもちろん、最近では情報収集や連絡手段用としてモバイルバッテリーも役立ちます。新型コロナ対策としてマスクや消毒液なども備えてください。

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 携帯電話 (充電器) | <input type="checkbox"/> 着替え |
| <input type="checkbox"/> モバイルバッテリー | <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ |
| <input type="checkbox"/> 非常食 (水) | <input type="checkbox"/> 救急用品・薬 |
| <input type="checkbox"/> 現金 (小銭多め) | <input type="checkbox"/> ※感染対策用品 |
| <input type="checkbox"/> 通帳 (印鑑) | <input type="checkbox"/> マスク |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯 (電池) | <input type="checkbox"/> 消毒液 |
| <input type="checkbox"/> 保険証・免許証 | <input type="checkbox"/> 体温計 |

使った分だけ買い足す備蓄方法
2. ローリングストック法

普段から災害に備えて保存食を備蓄しておくことは大変ですが、日常的に食べるカップラーメンや水などを多めに買って置き、消費期限前までに食べながら買い足す方法があります。備蓄食料の鮮度も保ちながら、非常時も日常生活に近い食生活を送れるというメリットも。



普段から家族で話し合う
3. 「家庭防災会議」

災害発生時、必ず家族全員がそろっている保証はありません。普段から避難場所や避難ルートを話し合っておくことが重要。「もしも」に備えて避難所の確認や、避難ルートを歩いてみることも命を守る大切な準備です。



後悔しないため「日常の備え」
台風や豪雨は予報が出ますが、地震はいつ発生するか予測できません。災害には、絶対に起こらないと言えない根拠、絶対に安全な場所などないのです。「いま被災したら。家族は、子どもたちは」。どんなに悔やんでも失った命は戻ってこないのです。自然災害の前では、私たちの経験や知識による想定は通用しません。だからこそ、家族で話し合い、「もしも」を想定した避難をイメージしてください。災害に「備えすぎ」はありません。かけがえのない命を守る「日常の備え」をお願いします。

3 避難所を知る Evacuation

町では13カ所の指定避難所を設定していますが、台風や大雨時にすべての避難所を開設するものではありません。気象庁が発表する気象警報や台風の進路、勢力などさまざまな情報から避難所を選定・開設します。避難所の開設情報は防災無線やホームページで随時周知しますのでご確認ください。

コロナ禍での避難を想定した感染予防対策を
避難所でも感染対策を徹底していますが、避難所用備品や物資には限りがあります。マスクや消毒液、体温計、紙コップなど、一人ひとりが感染拡大防止を想定した準備をお願いします。

避難所の開設
避難所を開設するときは、防災無線やホームページでお知らせします。食べ物や飲み物、着替えなどは各自ご持参ください。

【COVID-19】避難所での新型コロナ対策
感染防止のため、入口で検温と体調確認を行い、手指の消毒をお願いします。マスク着用、手洗い、咳エチケットにもご協力ください。
●…錦江町指定避難所 [13カ所]

2 5つの警戒レベルを知る

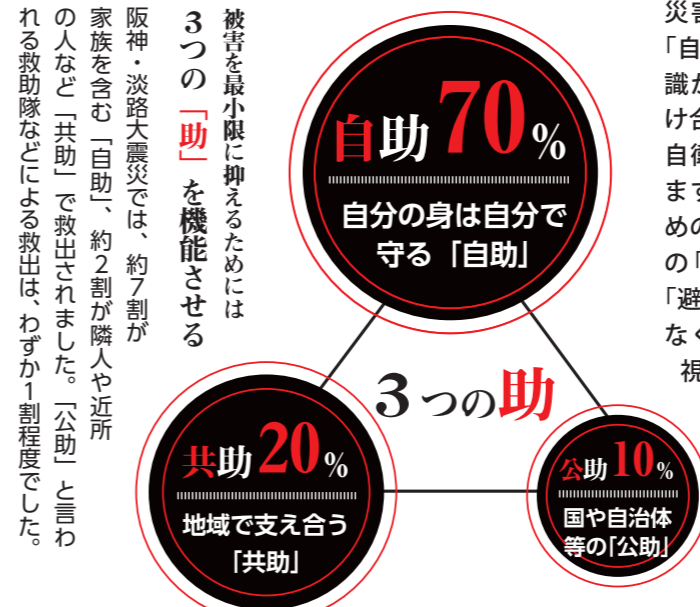
200人以上の死者を出した西日本豪雨災害を受け、平成31年3月にガイドラインが改定されました。5段階の警戒レベルで避難情報を発信することで、避難のタイミングを明確化。一人ひとりが警戒レベルを理解し、行動に移すための意識が重要になります。

警戒レベル	避難勧告など / とるべき行動
警戒レベル5 命を守る行動	災害発生情報 すでに災害が発生している状況。命を守る最善の行動をとる。
警戒レベル4 全員が避難開始	避難勧告 / 避難指示 (緊急) 災害発生の可能性が極めて高い状況。指定された地域の人はずっと避難を。
警戒レベル3 高齢者等は避難	避難準備・高齢者等避難開始 高齢者など避難に時間がかかる人は、この時点で避難を開始する。

※警戒レベル1・2は避難に備えて避難所の確認や準備を

1 危険を知る Hazardmap

錦江町内の土砂災害や河川氾濫の危険区域を色分けしたハザードマップ。町指定避難所も記載してあるので、災害が起こる前に、自宅周辺の危険な場所や避難所を把握しておきましょう。ハザードマップはホームページにも掲載しており、総務課で受け取ることもできます。



9割は自助と共助による防災
避難とは「難」を「避ける」こと
災害から身を守るには、何よりも「自分の命は自分が守る」という意識が大切です。次に「地域内の助け合い」。避難も救助も、警察、消防、自衛隊による活動には限界があります。命を危険にさらす前に「早めの避難」、それを可能にするための「日頃の備え」が大切です。また、「避難」とは避難所のみが先行ではなく、安全な知人や親戚宅なども視野に入れ、安全に逃げて、安全に過す。「難」を「避ける」ための工夫をお願いします。

錦江町役場 総務課 (地域防災マネージャー)
小瀧 弘規 防災専門監

